

行政が導入するメリット

- 「幸福度」は、個人の主観そのものであり、**目標として共感しやすくわかりやすい**
- 一定の生活水準に達すると生活満足度が頭打ちになる中で**新しい目標になりうる**
- “**住民の幸福度の総量を拡大すること**”が“**行政の役割**”であるという定義も、納税者にとって理解しやすい。行政がさらに努力する動機付けにもなりうる

政策評価に新たな可能性をもたらすものだが、課題も多い

- 幸福度向上と政策との連動の手法については、**発展途上段階**

課題

- 行政政策だけで高められるわけでない（行政政策の寄与度は4割程度とも）
- 幸福度は社会経済情勢に大きく影響を受けるため、不安定で説明をつけづらい
- 個人と地域全体の幸福が矛盾する場合があります、評価と運用が難しい 等

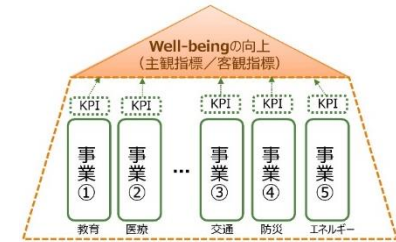
【事例】荒川区 区民総幸福度 2013年度～

- 東京都荒川区では、区民総幸福度（GAH）を測定するアンケートを2013年度から継続して行っている。
- 政策分野と紐づけてはいるものの、**幸福度の「実感」と幸福度を高める上での「重要度」と独自の軸で評価**しており、いわゆる「市民満足度調査」とは、大きく異なる質問項目を設定している。
- なお、荒川区は、この結果だけでなく、**政策効果の評価をしているわけではなく、幸福度に注目し、測定することを通じて、区民とともに幸福度を高める政策を研究するというスタンス**をとっている。



【事例】デジタル田園都市構想のLWC(Liveable Well-Being City)指標

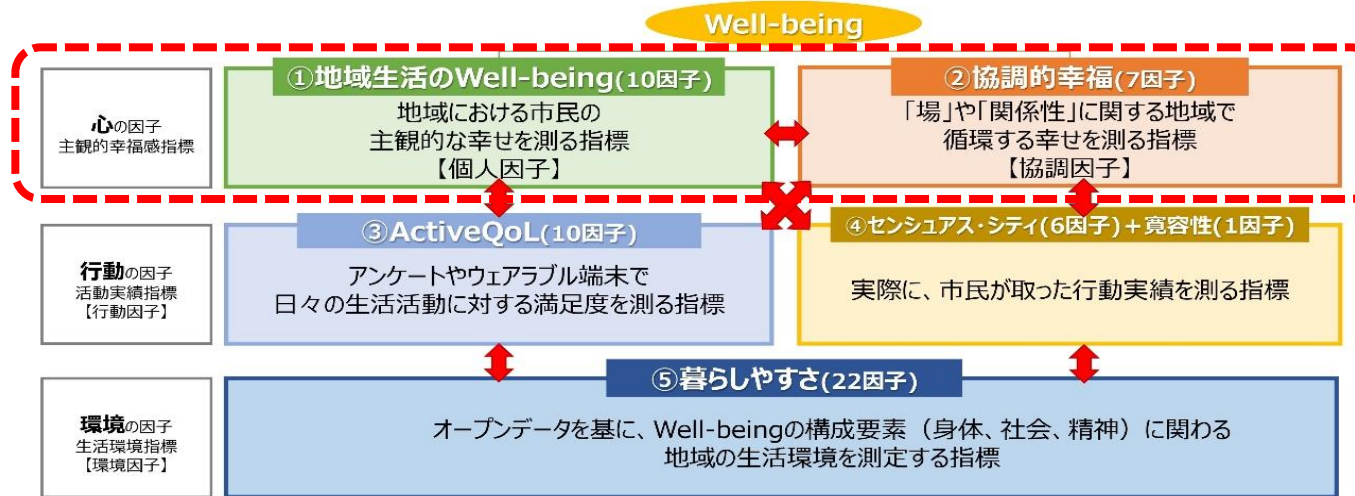
- デジタル田園都市構想では、地方創生戦略の施策・事業やデジタルを活用した複数のサービスが、Well-Beingの向上という共通のゴールに向けて協力・連携していくことを提唱
- 自治体がWell-Beingを測定する共通フォーマットとしてLWC指標を開発し、Well-Beingの可視化を支援
- LWC指標の構成は、以下の要素から構成される



- 心(主観的幸福感).....個人要因/協調的な幸せ : アンケートで把握
- 行動(活動実績).....行動実績 : アンケート+ウェアラブル端末で把握
- 環境(生活環境).....生活環境の充実度 : 統計により把握

※今回 第六次総合計画に活用部分

- LWC指標は主観的幸福感指標である心、活動実績指標である行動、生活環境指標である環境の大きく3つの領域に分類され、さらに全体として5つの指標(計56因子)で構成されています。



- LWC指標は、全国自治体との比較することができる幸福度指標群であり、国策であることから本市としても測定していく必要がある。
- ただし最上位部分の関係性が不明など試行的な段階で、そのまま第六次総合計画の指標体系に活用できるほどの完成度に至っていない。

第六次総合計画における幸福度指標の設定の考え方

設定の方針

- 長期戦略において「人口」と並列する目標として「幸福度」を目標として設定することで、単に人口を増加させるだけでなく、Well-Beingを高めていくという意思を示す
- 「幸福度指標」の設計・評価には、課題も多いが、以下のような形で幸福度指標を長期／中期戦略の目標指標に位置付け、運用しながら幸福度に寄与する政策形成や評価システムの成熟を図っていく

指標設定イメージ

長期戦略 目標指標イメージ

新たに市民全体の幸福度を定期的に測定する

幸福度(主観)

人口(統計)※継続

※指標間の関連性は、
運用しながら精緻化

中期戦略 目標指標イメージ

戦略分野ごとに、主観+統計指標を設定し、測定する

戦略分野

(例)パートナーシップ・子育て

主観指標

※LWC指標活用部分 アンケート測定

個人要因の幸せ

大切な人を幸せにしていると思う

協調的幸せ

将来世代に良い環境や文化を残したい

統計指標

合計特殊出生率

【アンケート・質問項目】

現在、あなたはどの程度幸せですか？

「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいですか？

【分析】

- 基準値を把握して、目標値を設定。毎年、測定
- 幸福度向上に寄与する分野、施策、その他の要因を研究

幸福度指標の設定と評価検証の具体的な方策

基準値の設定方法

- 令和4年12月に実施された「地域福祉計画策定にかかるアンケート」で把握した幸福度調査結果の主観的幸福度を基準値として活用する
- ただし、同調査は、本市の人口分布に比べて、高齢層や女性の回答比率が高くなっているため、実際の人口分布(年齢階層・性別)によりウエイトバックを行い、補正した値を基準値とする

目標値の設定方法

- 本市において幸福度を調査するのは初めての試みであり、妥当な目標水準を設定することが難しいことから、9年後の幸福度の目標を「基準値以上」とする

継続的な数値取得の方法

- 毎年度実施している市民満足度調査において、主観的幸福度の項目を設けて毎年度、測定することを想定する

地域福祉計画策定にかかるアンケートの概要

調査対象者	20歳以上の市民 2,500人 ※ 住民基本台帳からの無作為抽出
配布/回答方法	郵送で依頼。調査票またはインターネットで回答
調査期間	令和4年12月1日～12月21日
有効回答・回答率	1,303件 (52.1%)

幸福度の回答結果

現在、あなたはどの程度幸せですか？
「とても幸せ」を10点、
「とても不幸」を0点とすると、
何点くらいですか？

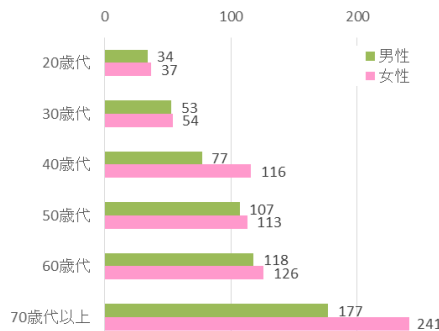
	回答者数(人)	割合(%)
0点(とても不幸)	11	0.9
1点	8	0.6
2点	18	1.4
3点	38	3.0
4点	46	3.6
5点	231	18.2
6点	145	11.4
7点	271	21.4
8点	285	22.5
9点	106	8.4
10点(とても幸せ)	110	8.7
合計	1,269	100.0

回答者全体の
主観的幸福度

6.78点

回答者の年齢分布

地福アンケート回答者の分布



人口分布 R4.10.1 毎月人口異動調査

